

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

自然と笑顔の美しいまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮崎県、宮崎県東臼杵郡美郷町

3 地域再生計画の区域

宮崎県東臼杵郡美郷町の区域の一部（北郷区）

4 地域再生計画の目標

(1) 特性

美郷町は、宮崎県の北部に位置し、県の総面積の約6%に当たる44,872haの面積を有する町である。北は延岡市・日之影町、東は日向市・門川町、南は西都市・木城町、西は諸塚村・椎葉村に接している。

本町の中央部には耳川が東西に貫流し、北側には五十鈴川、南側には小丸川が流れており、本町はこれら河川の上流域に位置している。

本町北郷区は、県北部の中心都市「日向市」及び「延岡市」まで約40kmの距離に位置しており、東西約20km、南北約12kmの広がりを持っている。同区は、周囲を九州山脈脊梁山系に囲まれ、五十鈴川が山峡部を縫いながら中央部を貫流し、日向灘に注いでいる。

[豊かな森林資源]

北郷区は、杉生産全国1位で知られる本県耳川流域に位置しており、古くから林業の盛んな地域である。

区内の山林面積は10,982haで、全て民有林であり、人工林面積は6,252ha（人工林率56.0%）となっている。これらの人工林のうち、3齢級から7齢級の林分が52.1%を占めているが、その多くが杉（約3,941ha）で、次いでヒノキ（約943ha）となっている。

4,730haの天然林の一部については、「水土の保全」や「森林と人との共生」という考え方にに基づき、住民の永久財産として「いのちの森」に指定し、下流域住民全ての水瓶（水源）として大切に保護している。

また、特用林産物として、クヌギを利用した「しいたけ」の生産を行っているほか、カシを材料とした「木炭」（年間生産 約350t）の生産も行っている。この木炭は、和歌山県に次ぐ生産量となっており、「宇納間備長炭」の銘柄で関東・関西方面へ出荷されている。

[豊かな自然]

清流五十鈴川は、夏には水遊びを楽しむ家族づれが訪れ、国道沿いの「舟方轟」では、急流によって侵食された奇岩の群れを見ることができる。対岸には、山ツツジや岩ツツジ、もみじなどが植生しており、四季を通して訪れる客の目を楽しませてくれる。

また、土々呂内溪谷や雄滝などは、流れる水や周囲の風景とあいまって、自然の神秘を感じることもできる場所である。

山々は、春には新緑が輝き、夏には涼しい風が吹き、秋には赤や黄色に色づいた風景が見られる。中でも、600本ものもみじが植栽された松ヶ下林道は、例年、多数のもみじ狩り客で賑わっている。

[大切な歴史・文化]

宇納間地蔵は、江戸時代に延岡藩主・内藤政義公の江戸藩邸を江戸の大火から守ったという言い伝えのある火伏地蔵で、旧正月24日の大祭には、県内外から多くの参拝者が訪れる。

神楽やねり踊りなどの伝承芸能も、各地域で後継者育成などを行いながら、大切に保存していく取組が行われている。

宇納間備長炭は、カシの木を材料に1,000度以上の高温で焼き上げる高級白炭で、北郷区は江戸時代からの産地として知られている。昔から伝えられている木炭の製造技術は奥が深く、その製法は親から子へ、子から孫へと伝えられ、現在に至っている。近年、木炭利用の用途が広がり、健康志向・本物志向もあってか、生産と消費は順調に推移している。

[観光ポイント]

美郷町と県北の市町村を結ぶ国道388号においては、門川町から本町北郷・西郷区間(旧県道)が平成5年4月に国道に昇格、平成16年11月には西郷区境のトンネルが開通し、北郷区を訪れる観光客は増加傾向にある。

北郷区は、「星降る地蔵の里づくり」をテーマとした自然活用型施設である中小屋天文台「昴ドーム」(九州最大級の60cmリッチークレチアン式反射望遠鏡、全国初の大画面による天体映像表示システムを備える)やキャンプ場「スカイロッジ銀河村」(標高約1,000mのクヌギの木立に囲まれたロッジ)を有することから、日向市、延岡市、遠くは福岡市などからキャンプ客らが訪れる。

また、親水公園としての機能を持つ五十鈴川沿いのオートキャンプ場も、多数の客が訪れる場所である。

さらに、あじさいの植栽など、椎野地区の住民が長い年月をかけて整備してきた「あじさいロード」は、平成19年6月には農林水産省主催の「美の里づくりコンクール」で農林水産大臣賞を、平成20年1月には(社)日本観光協会主催の「花の観光地づくり大賞」を受賞し、数多くの観光客が訪れる新たなスポットとして注目を集めている。

(2) 課題

林業については、戦後植栽された人工林が主伐期に入り、本格的な生産期を迎えようとしている。木材の生産量は年々増大し、本町経済の大きな位置を占めている。

一方、生産基盤の林道は密度が低いため、これを補完すべく、作業路の開設や林内作業車等の普及による省力化を進め、生産コストの低減を図っているものの、まだ十分な密度の向上には至っていない。

また、木材加工の拠点である木材加工団地は、中径材までの加工施設整備に止まっているため、今後、生産の増加が見込まれる大径材処理施設の整備による木材加工団地の充実が急務となっているほか、施設整備に伴う流通対策も求められている。

木炭にあつては、多面的な用途開発等もあり、安定した価格に支えられていることから、今後も需要の伸びは期待できるが、原木対策に加え、労働や生産技術を担う後継者不足が課題となっている。

農業については、林業との複合経営が多く、和牛、豚、緑茶を基幹農産物として生産拡大が進められてきたが、小規模な経営（1戸当たりの経営面積60a）や価格の低迷、就業者の高齢化、離農等が原因で生産の増大が難しい状況である。ミニトマト等の施設野菜や、スイートピーやおずき等の施設花きの生産も行われるようになってきたが、受託組織や施設整備が不十分であるため、今後、整備を進めていく必要がある。

特用林産物のしいたけは、長年に及ぶ価格の低迷等もあつて、生産意欲の低下による生産者の減少が続いていた。近年、徐々に価格が安定し、生産者も増加傾向にあるが、生産基盤である人工ほた場の不足や乾燥設備の老朽化等の問題も抱えていることから、安定した収量確保を図るため、原木供給体制整備を含めた基盤整備が急務となっている。

こうした状況の中、北郷産の米やしいたけが、姉妹都市である沖縄県豊見城市で販売されるなど、新たな販路拡大の動きが芽生えはじめている。

観光では、最大の観光資源である宇納間地藏尊は依然として大勢の参拝客を招いているものの、参拝は例祭日が中心となっていることから、年間を通じて多くの参拝客に訪れてもらうため、周辺環境整備が急務となっているほか、各観光ポイント（歴史や文化とふれあえる場所も含む）を結びつける観光ルートづくりも重要な課題となっている。

町の活性化において、道路網の整備は重要な要素であり、産業、教育、文化、福祉、医療等全ての分野に多大な影響を及ぼしている。特に、県北の市町村と本町を結ぶ国道388号においては、未整備区間が多く、整備を強力に促進することが緊急の課題である。

また、生産、観光道路として重要な役割を果たす県道宇納間日之影線や、これらの幹線道路と町内主要集落を結ぶ町道も安全性や利便性に欠ける路線が多く、生活生産活動に大きな障害となっているほか、林産地へとつながる林道整備も林業振興を図る上で重要な課題となっている。

(3) 目標

北郷区では、恵まれた豊かな自然の中で、健康で楽しく、笑顔で生活できるまちを目標に、「自然と笑顔の美しいまちづくり」に取り組んでいる。

その取組の一つとして、人々の日常生活や生産基盤の根幹をなす道路網の整備は、産業、観光の振興や地理的ハンディを克服するために必要不可欠であるため、都市部との幹線道路網の整備を強力に推進するとともに、幹線道路と町内主要集落を結ぶ町道については、重要路線又は広域的機能を有する路線から逐次整備を進める。林道等についても、木材やしいたけ・木炭の原木などを輸送する重要な路線であることから、積極的に整備することとする。

幹線と町道・林道等が有機的に整備されることで、産業、観光、福祉、医療、教育等の充実が期待される。

豊富な森林資源を活かした主産業である林業の振興に重点を置き、森林の保育、間伐を適切に実施していくことも重要である。近い将来、主伐期を迎える人工林が急激に増加することから、高性能林業機械の導入を含め、伐採を計画的に実施するための体制整備を推進する。併せて、優良木造住宅供給拠点を目指した木材加工団地の整備充実を図るとともに、当該団地へのネットワーク路線の整備を進め、木材運搬の利便性向上、高性能林業機械搬入環境の整備、生産コスト及び労働の低減を図る。

また、「やすらぎの場」や「くつろぎの場」等、森林に求められる多面的な機能を提供できるよう、観光と合わせた都市農村交流を促進し、活力ある農山村地域の再生を目指す。

- (目標 1) 林業の活性化と木材生産流通の拡大(間伐面積5%増加)
- (目標 2) 町道整備による各所への所要時間の短縮
(入下長野線 所要時間10分短縮)
- (目標 3) 都市農村交流を促進、自然に親しむ観光客の増加
(自然に親しむ観光客 20,000人増加)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

北郷区の中央部を通る「国道388号」を軸に、それに接続する町道・林道を集中的に整備し、農林産物の物流の効率化を図る。

国道388号の迂回路の役割を果たす道路としても大きく期待を寄せられている町道「入下長野線」は、これまでに一次的な改良は終わっているものの、幅員が狭い上に突角部が多く、視距不足の箇所が点在していることから、集中的に整備を行い、通作等の安全と近隣各所への所要時間の短縮を図る。

また、この「国道388号」「入下長野線」を中心に、林道板屋線、山ノ口五郎太線、清水沢線の各路線を木材加工団地へのネットワーク路線と位置づけ、舗装・改良等の整備を行うことにより、木材搬出の利便性の向上を図る。

さらに、高性能林業機械が使用可能な環境を整備し、木材生産経費の節減を図るとともに、自然と触れあえる「やすらぎの場」「くつろぎの場」といった森林の持つ多面的な機能を活用できる道づくり、観光ルートづくりを行う。

その他、木材加工団地の整備充実、高性能林業機械の導入整備のほか、農林業の組織育成や後継者育成、木炭生産などの生産技術の継承等にも積極的に取り組む。

※ 町道「入下長野線」については、平成20年3月7日に町道として認定しており、林道「板屋線」「山ノ口・五郎太線」「清水沢線」については、宮崎県による耳川地域森林計画(平成13~23年度)に記載されている。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

- ・町 道（美郷町北郷区） 美郷町
- ・林 道（美郷町北郷区） 美郷町

[事業期間]

- ・町 道（平成 17 年度～21 年度）
- ・林 道（平成 17 年度～20 年度）

[整備量及び事業費]

- ・町 道 1.36km
- ・林 道 5.82km

- ・総事業費 673,200 千円
- 町 道 524,000 千円（うち交付金 262,000 千円）
- 林 道 149,200 千円（うち交付金 61,266 千円）

5-3 その他の事業

本町においては、今後、大径材の生産増が見込まれているが、木材加工の拠点である木材加工団地は、中径材までの加工施設整備に止まっているため、大径材の処理施設の整備等、当該加工団地の充実を図るとともに、姉妹都市沖縄県豊見城市の小学校・幼稚園改修(内装)工事に町産材が使用されたことを契機とし、更なる販路拡大策を講じる。

林業就業者の高齢化や後継者不足によって、将来的に労働力の不足が生じると考えられることから、作業路の開設などと併せて、高性能林業機械の導入を進める。加えて、農林業の後継者育成や木炭生産技術の継承などの対策も行うほか、新たに芽生えた流通への対応ができる農業組織の育成や施設整備を行う。

また、森林の持つ多面的な機能を活用できる道づくりや、町内に点在する観光ポイント（中小屋天文台・キャンプ場・宇納間地藏尊・木炭の里・雄滝・土々呂内溪谷・舟方轟・オートキャンプ場等々）を結ぶ観光ルートづくりを行うほか、観光ルートづくりと連携した観光イベントなどの事業にも積極的に取り組む。

6 計画期間

認定の日から平成 22 年 3 月末まで

7 目標達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い、状況を把握・公表するとともに、関係団体等からなる「協議会」を開催し、達成状況の評価、改善すべき事項等の検討を行うこととする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し